

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 **オリーブ**)

事業所番号	0670800770		
法人名	医療法人社団 さつき会		
事業所名	グループホーム明日葉		
所在地	酒田市曙町2-24-2		
自己評価作成日	平成27年12月18日	開設年月日	平成15年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者の家族とのコミュニケーションを大切に、入居者にとって最も良い方法・環境作りを心掛けています。②入居者の体調管理は、個々の特徴を捉えてトイレ誘導や排泄、バイタルチェック、食事・水分量など細かくチェックしている。③医療面に関しては、同法人の老人保健施設及びクリニックが近接しているので、医師・看護師とすぐ連絡がとれる体制になっている。④体操・レクリエーション心身の機能維持・向上を心掛けています。⑤行事・イベントに力を入れ、楽しんで頂けるよう企画している。ドライブや希望の外出にも積極的に取り入れて、施設に閉じこもらないよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明日葉三原則「明るい挨拶、明るい笑顔、明るい声かけ」を行動指針とし、ホールで歌ったりおやつ作りの手伝いや洗濯物をたたんでもらうなど、これまでしてきたことを活かしたくらしで輝きを引き出しています。地域の行事参加や幼稚園との交流などを積極的に行い、また、利用者同士や家族・職員との絆を深め、双方が楽しく笑いながら、明日葉での生活が少しでも長く続くように支援しています。開設12年を過ぎ、医療機関と連携を密にしながら職員同士が良好な関係を築き、和やかな雰囲気の中で利用者の穏やかな暮らしぶりに、これまでの取り組みに手ごたえを感じている事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 28年 1 月 20日	評価結果決定日	平成 28年 2月 10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、明日葉三原則「明るい挨拶、明るい笑顔、明るい声掛け」を心掛け、その人らしく生活できるよう支援するとともに、地域の交流も大切にし、生きがいある支援に努めている。	基本理念と明日葉三原則を大切に日々関わり、毎月のケア会議では確認して振り返りを行っている。利用者一人ひとりの個性を理解して、明るく声がけをしながら思いに沿ったくらしが出来るように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と防災訓練・夏祭りを行ったり、幼稚園・小学校と交流を行っている。また、法人の広報誌明日葉だよりを通じて活動報告をしている。	町内会回覧板に広報誌明日葉だよりを入れてもらい、くらしの様子や夏祭りなどの情報発信を行っている。また地域の文化祭や幼稚園の運動会応援に出かけたり、芸能ボランティアの来訪を受けるなど交流を楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に数回家族介護教室を行い、認知症について話す機会を設けている。職員が地域の認知症介護をしている方の交流会に参加している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換を行っており、インフルエンザ等の感染症対策など話し合っている。	市や地域包括支援センター職員と家族全員と地域の方にも案内を出して可能な方の参加を得て開催し、活動内容や行事計画、時節にあった事柄をテーマに話し合われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き助言を頂いている。また、疑問点があればその都度報告・相談を行っている。	地域密着部会や集団指導に参加し法改正に係る疑問点を聞いたり、困難事例の解決に向けて相談や助言を受けている。また運営推進会議に出席してもらい実情や取り組みを知ってもらうなど良好な関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束について施設内研修会を行い、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。常に入居者の状態を確認しており、身体拘束をしている方はおらず、今後もゼロで行きたい。	様々な研修を通じて、身体や言葉の拘束をしないケアを学び正しく理解している。立ち上がりに危険を伴う利用者は、本人と家族の理解を得て部屋のドアを開けておくなどの工夫をしながら見守りを重視し、抑制のないくらしに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会で学んだことを実践し、虐待を見逃さないよう、職員が同じ意識を持ってサービスを行うよう努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修会で勉強している。包括支援センターより情報を聞き、家族へ情報提供している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族の方に理解して頂くよう施設見学や十分な説明を心掛けている。契約時以外にも疑問が生じた場合は、その都度説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が職員になんでも話せるようコミュニケーションや環境作りを心掛けている。その他に玄関ホールに意見箱を設置したり、家族にアンケート調査を行っている。(忌憚のない意見を頂くために匿名にしている)	明日葉だよりと共に暮らしの様子など職員のコメントを送付したり、家族等の面会時に意見や要望を聞きだしてサービスに反映させている。無記名で家族アンケートも実施し感謝やねぎらいの言葉が多く寄せられている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の人間関係を大切にしており、歓迎会や反省会などを設けて話しやすい環境作りに努めている。毎月の会議で意見を出せる場を用意し、発言を促すようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に目標を設定してもらい、上半期下半期で自己評価をしてもらい、向上心を持って働けるよう勤めている。職員評価も行っており、良いところ・悪いところを確認し、次に活かせるようにしている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会に参加するように働きかけをしたり、介護福祉士やケアマネージャーの試験対策も行っている。外部研修には、希望者を募ったり、適当な人に参加してもらったりしている。	身体拘束や高齢者の健康管理などに関する内部研修を受け実践している。外部の排泄ケア研修では事例発表を行うなどの取り組みをしている。資格試験の対策勉強会なども実施し合格者も複数出て成果を挙げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会の管理者研修や基礎研修などに参加し、他事業者と意見交換するなど交流を図っている。	グループホーム連絡協議会を通じて交換研修を行ったり、研修部会の幹事を務めるなど交流を図っている。他事業所の取り組みを体験し、双方が振り返りや気づきのきっかけとなり、ケアに活かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接し、本人と家人から話しを伺い、安心して生活出来るように対応に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接を行い、傾聴を心掛けている。本人が安心して過ごせるよう家族とその都度相談し、信頼関係を築くよう心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族と相談し、必要とするサービスの提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が主体となって生活できるようサポートし、家事など一緒に行うようにしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にし、協力し合い入居者を支えるよう努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊・外出は自由に行って頂き、関係が途切れないよう支援している。面会も友人や親戚の方にも行ってもらえるようお願いしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考え、その都度、部屋や席を変え孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の流れなどを説明し、スムーズに移行出来るようにしている。退去後も相談に応じたり、様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から希望や意向を汲み取り、困難な場合は家族に聞いたり本人の立場に立って検討するようにしている。	入居前に自宅や病院に訪問し、本人や家族から思いや暮らし方の意向を聞き把握している。他の利用者に関わりを好まない方には寄り添いながら少しずつ連れ出し様子を見ながら、統一した支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や趣味などアセスメントをとって把握に努めている。また、家族・ケアマネ・包括にも聞いて把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のやる気に合わせて、無理に頼まず、なるべく気持ち良く継続して行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴、既往歴などの情報を詳しく聞き取り、ケアマネはじめ医療関係者、本人及び家族と相談して、本人の状態に合わせて介護計画を作成している。	介護計画は3ヶ月毎にモニタリングをして6ヶ月毎見直しを行っている。家族の意向も確認しながら、ケア会議で出された意見を反映させて、本人の希望を最優先した計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄、水分、食事の状況について記録し、介護計画に活かしている。また、日々の変化、気づいたことなどを申し送り連絡ノートを使い、情報の共有を図り、問題点や改善策などを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	幼稚園や小学校と交流を図ったり、避難訓練では自治会・消防署や地域の方の協力を得て、安心して楽しく暮らせるよう支援している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者のかかりつけ医を把握しており、受診の支援を行っている。また、かかりつけ医と連絡が取れない場合は法人の管理医と協力体制を整え、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の継続については、入居時に協力医に変更しており、2週間に一度往診を受けている。診療科目によっては、紹介状を持ち職員が付き添っている。結果は面会時や、電話で報告し共有している。服薬についても四重チェックし誤薬防止に努めている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、体調の悪い方の情報を法人の看護師に報告相談している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に、病院・家人と連絡をとり、状態の把握に努め、退院後もスムーズに生活出来るように連携を図っている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族の意思を把握しながら、病院や施設など今後のサービスについても話し合っている。	利用者、家族等には医療行為が出来ない為に看取りは行っていない事を伝えている。健康状態を細かくチェックし日常の機能変化に気づき、家族等と話し合い、早めの対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成及び研修会を行い、緊急時の対応に備えている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練に自治会長と副会長、近隣の企業より協力してもらっている。災害時は法人全体でカバーできるよう体制を整えている。	年2回の訓練は、夜間想定も組み入れ、消防署、防災業者、近くの企業からも参加してもらい実施している。自治会長には、電話連絡網に番号の記載協力ももらっている。米や缶詰等の備蓄もしており、持ち出し物の点検等も防災委員を中心に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、プライドやプライバシーを守るよう心がけ、家事仕事などは無理にお願いしないようにしている。	生活歴等職員間で共有し、統一した対応が出来るよう周知している。フレンドリーな会話の中から昔に戻り輝きを引き出し、残存能力の保持に役立てるなど、興味を持って暮らし続けられるよう支援している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう、さりげなく声掛けや見守りを行っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かい日課はなく、本人の意向を確認しながら、入居者の希望・ペースを優先している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは入居者の方と相談し、その日の好みに合った服装をしてもらっている。理容に関しては、家族から協力を得てなじみの美容室に行ったりしている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れたものを処理してもらったりと、出来ることを行ってもらっている。また、その時季に合わせた料理やちらし寿司など、楽しめるよう配慮している。	献立は、法人の栄養士が作り、主菜は法人内施設から受け、副菜は、ホームで作っている。年中行事や季節に合わせた料理を楽しみながら、ぼたもちや笹巻作りなど、おやつ作りも利用者と一緒に、ひと時を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人栄養士の協力を得て献立を立てている。個人の水分量・摂取量のチェックを行い、個々に対応している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレの定期誘導を行い、排泄用品の使用を減らすなど自立支援を心掛けている。	健康管理や排泄も一緒に管理した日常生活チェック表で、時間を見て静かに誘導しながら、トイレの自立支援をしている。使用済みペーパーは流さずに足元の箱に入れてもらい、排泄チェックをしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士から協力してもらい、野菜を多く取り入れたメニューになっている。リハビリ体操も行っているが、医師から薬を処方してもらうこともある。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	季節に合わせて変わり風呂を実施している。入浴日は決めているが、本人の希望に合わせて実施している。	週2日の午後にお風呂を楽しんでもらっている。移動時は職員2人が付き添い、一般浴槽を利用し、浴室では転倒など無いよう1対1の介助し湯上りは水分補給も忘れないようにしている。入浴しない日は一人で出来る方には、靴下とパンツは毎日履き替えるようにしてもらい清潔を保っている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドでの生活が長い方には、CDラジカセを利用し、民謡をかけたりして、休息して頂いている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に対する知識はもちろん、誤薬防止のためのチェックリストを用いて、確実な服薬の徹底に努めている。服薬支援の際は、職員二名で確認、入居者の名前を呼ぶといったダブルチェックを実行している。また、症状の変化にも注意している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や楽しいことを把握し、自主性を尊重しながら活動してもらっている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て、希望のある方は外出・外泊を行っている。暖かい時期は外に散歩に行ったり、買い物支援を行っている。イベントがある時には出かけたり、ドライブに行ったりしている。	ドライブに出て、車を降りて街を眺めたり、草木・花を見たり、ホーム周辺の散歩を日課にして、外気浴を心掛けている。希望で美容室に同行したりの支援もある。冬季は白鳥に会いにドライブに行ったり、また、レクリエーションでゲームを利用し筋力の維持を図っている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状況・能力に合わせて管理してもらっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきたら本人につながるようにしており、希望があれば電話もかけてもらっている。手紙のやりとりも自由に行っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度の管理を行い、体調を崩さないよう注意している。貼り絵など行った物など掲示したり明るい雰囲気を中心掛けている。	食堂ホールで皆で一緒に過ごしている時間が多い。小上がりを利用して折り紙をしたり、隣のユニットに遊びに行ったりもしている。行事や出かけた時のスナップ写真をはり、楽しかった事を思い出すきっかけ作りをしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でおしゃべりしたり、ソファで気の合う人同士で交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・道具など自由に持ち込んでもらい、ベッドの位置も自由に決めてもらっている。畳の希望者にも対応している。	部屋も広く、ベッド、チェスト、洗面所が設けてあり、なじみの物を持ち込み個人個人が過ごしやすい居室作りをしている。食堂ホールに面した居室は、職員の目が届き、夜間はドアを開放しており、利用者が安心して夜を過ごせるよう配慮している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかること・できることについてアセスメントを行い、職員が統一した理解のもと、自立支援に努めている。	/	/